

リソース（資源・資質）

リソース(resource)とは、「資源・資質、内に秘めた力」と訳されます。内的にも外的にも、児童生徒が「もっているもの」のことで、物質的、精神的、外面的、内面的に今そこに「有るもの」のことで、解決志向の枠組(ブリーフセラピー)では、児童生徒に問題解決のためのリソースがあるととらえます。その子がもつ「機能している力、秘められた力」としてのリソース(資源、資質)に焦点をあてます。

リソースにはどんなものがありますか

自己リソース

<個人が内的にもっているもの>

性質、能力、興味、関心、嗜好、特技、好物、得意科目など

<外面的なもの>

容姿、器量、身なり、態度、雰囲気、自己表現方法など

- ・好きなこと、得意なこと
- ・やりたいこと、なりたいこと
- ・例外、やれていること
- ・続いて(増えて)ほしいこと

環境リソース

<大事にしているもの>

ペット(鳥、カメ、ハムスター、昆虫)
ぬいぐるみ、手紙など

<外部に存在するもの>

自然、環境、施設、設備など

他者リソース

<私的な関係>

家族、兄弟、親戚、友人、地域の友達

<主に公的な関係>

教師、教員、病院、相談員、民生委員

- ・親密性のある人
- ・かかわれる人・・・

なぜ、リソースを知るのですか

目の前に不登校の子どもがいるとき、なぜこんなに症状が悪化したのだろうか、問題の原因はどんな所にあるのだろうか、と、頭を悩ませ、指導・

援助において原因を改善、取り除こうとする傾向があります。しかし、いろいろな要因が重なった心の問題は原因が特定できないことが多く、解決は容易ではありません。目の前にある課題、大きな山を取り除くのではなく現実課題への対処行動をとることができる指導・援助を考えます。

適応できなくて苦戦している子どもの、そこに「有るもの」や子どもたちのこれからのよりよい姿につながるものを見つけ、適応しやすくなるように指導・援助します。

リソースに置き換える

「熱心な母親」を過保護と見るか、強力な協力者ととらえるか、また、「こだわり」を問題と見るのかリソースと捉えるかで差が出ます。

問題や課題の周辺にリソースがあると発想することです。「××が問題だ」と感じたら「××できる能力」と置き換えてリソースと捉え直します。

その子の売りは何か(ポジティブな見方)

「どうなりたいのか」「どうしたいのか」

「解決へのイメージ」「未来イメージ」

段階的に小さな課題、目標を決め、段階的にステップを踏んで、できたことを評価します。

3つのルール

- うまくいっているのなら、変えようとするな
- もう一度やっとうまいったのなら、またそれを続けよ
- うまくいっていないときは、違うことをせよ

- 【参考文献】
- ・森俊夫、黒沢幸子『解決志向ブリーフセラピー』ほんの森出版(2002)
 - ・宮田敬一『学校におけるブリーフセラピー』金剛出版(1998)